

のべおか みずからまもるレポート vol.2



大瀬川河口

Protect from water by myself



「みずからまもる」プロジェクトの現在の状況とこれからの取り組みをお伝えします。



岡富地区(H17.9台風14号出水時)

五ヶ瀬川・大瀬川・祝子川・北川が市の中心部を流れる「のべおか」では、平成17年に発生した台風14号により、軒並み戦後最高となる水位を記録し、市内5ヶ所では堤防を越水、河川水位の上昇による内水被害が発生するなど大きな爪跡を残しました。

このような被害を軽減するため、平成17年11月18日に「五ヶ瀬川激甚災害対策特別緊急事業（通称：激特事業）」に採択され、現在、平成21年度までの5カ年計画で、集中的に河川改

修を進めています。

併せて浸水被害を着実に軽減させるために国・県・市が一体となった「みずからまもる」プロジェクトを設立し、地域や関係機関と連携しながら、河川事業などのハード整備だけでなく、防災メールサービスやハザードマップの公表など、ソフト面での対策も行っています。

現在の進捗状況と今後の取り組みについてレポートします。



河道掘削（鷺島橋付近）

激特事業とは？

洪水や高潮などにより大きな被害が発生した地域において、様々な河川改修を短期間（5カ年）に集中して行い、その後の災害被害を軽減する事業です。平成9年に大きな被害があった五ヶ瀬川水系北川では、すでに事業の効果を発揮しています。

「みずからまもる」とは？

災害を軽減するには、治水事業だけでは限界があり、各行政や地域の皆さん自らが「災害に強い地域づくり」を進めることが大切です。「みずからまもる」プロジェクトとは、「水からまもる」=水を治める、「自らまもる」=地域の防災力向上を併せて被害軽減に努める意味で付けられました。

水からまもる ～ 五ヶ瀬川激甚災害対策特別緊急事業 (通称: 激特事業) の進捗状況 ② ～

	河道掘削
	築堤
	排水ポンプ場
	H17年台風14号 浸水箇所



事業箇所と現在の状況です

河道掘削 かどうくさく

河道掘削とは、川を広くまたは深くして洪水を流れやすくする工事です。

五ヶ瀬川では現在、天下橋上流、岡富・古川地区、北小路・本小路地区の掘削を実施しています。

また、北町・本小路地区では、治水整備はもちろんのこと「北町・本小路の護岸整備を考える会」が設立され、意見交換等を行い、住民が川に親しめる場所として生まれ変わりました。

大瀬川では、大瀬橋の上下流約800mと、延岡大橋より下流の掘削を実施しています。



現在の状況(市役所裏)



※掘削や築堤箇所は、河川の現状を考慮した事業計画を見直しながら実施するため、実際の工事箇所などについては変更する場合があります。

隔流堤 かくりゅうてい

河川の合流部に設置することにより、合流による水位上昇を防ぎます。

延長約760mのうち、昨年度までに約310mが完成しました。隔流堤の下流部分には水門を設置し、平成20年度末に完成予定です。

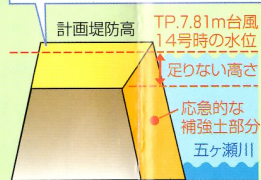


堤防 ていぼう

洪水が越水しないよう堤防を設置(築堤)、または計画の高さまで高くします(かさ上げ)。

岡富地区

腹付堤防とは現在の堤防を利用しながら補強土をつけ堤防を高くします。



現在の状況(岡富地区)

台風14号により五ヶ瀬川の水が堤防を超え浸水被害が発生した岡富・古川地区では、岡富古川地区区画整理事業(延岡市)や国道218号線拡幅事業(宮崎県)との連携により高さの足りない堤防に、盛り土を行い堤防の高さを上げていきます。現在、岡富・古川地区の堤防高さが低い箇所については、応急的に堤防前(川側)に腹付け盛り土を行い、水防時における越水防止に対応できるよう実施しています。今後も築堤工事の完成を目指すとともに、五ヶ瀬川河口の掘削、祝子川の築堤を実施していきます。

排水ポンプ場 はいすいぼんぷじょう

洪水時に対象支川の水が溢れないように、ポンプを使って本川に強制的に排水する施設です。

北川の川島排水ポンプ場については、平成19年の台風期、追内川排水ポンプ場については平成21年3月の完成を目標に進めています。

祝子川においても、現在、宮崎県が夏田地区の排水ポンプ場の整備を進めています。

排水ポンプ場のイメージ図



追内川排水ポンプ場起工式(平成19年4月)

追内川排水ポンプ場
毎秒 **12m³** 排水

川島排水ポンプ場
毎秒 **3m³** 排水



河道掘削(大瀬川下流)

河口

安賀多橋の架け替え

●安賀多橋について

現在の安賀多橋は延岡市の中心部を南北に走る県道稲葉崎～平原線の大瀬川に架かる、長さ251mのコンクリート橋で、昭和10年に着工し、12年7月27日に完成しました。昭和35年12月には右岸側堤防を17.6m継足しています。

しかし、現在70年が経過し、老朽化が進んでいることや、桁下が低いこと、橋脚が多く（9本）洪水を安全に流しにくいなどの問題がありました。平成17年9月の台風14号被害により採択された「五ヶ瀬川激特事業」により、今回の安賀多橋の架け替えを行います。



完成イメージイラスト

●安賀多橋の景観を考える会

安賀多橋で架け替えを行うにあたり「安賀多橋の景観を考える会」を3回開催し、トッパレール式の高欄や歩行者と自転車色分けした歩道、ベンチ付きのバルコニーなど橋面のデザイン、色彩等を決めました。

考える会がまとめた橋のデザインは上部にステンドグラスが入った現在の親柱四基をそのまま使うほか、高欄の壁は現橋と同様コンクリート製とし、壁の下部に半円形の窓を開けます。また、欄干から川を眺めることができるよう天端にレールを付けたトッパレール式を採用し、半円形のバルコニーを八ヶ所設置し自然石を使用したベンチを置きます。

歩道は滑りにくい素材を使い、歩行者と自転車ゾーンを色分けします。また、ダブルアーム式の照明を九ヶ所に設置、アーム部分に水郷のべおかの象徴であるアユを装飾し、桁はグレー系の色で塗装します。

新橋は橋長255メートル。幅員16.0メートル。「鋼五径間連続鋼床版箱桁（けた）橋」とし19年度中に着工、完成は21年度内を予定しています。



現地視察（安賀多橋の景観を考える会）



デザイン及びカラーを決定（安賀多橋の景観を考える会）

事業計画

今後の洪水発生に備え、早期に浸水被害の軽減ができるように計画的に事業を進めていきます。みなさまのご理解、ご協力をお願いします。

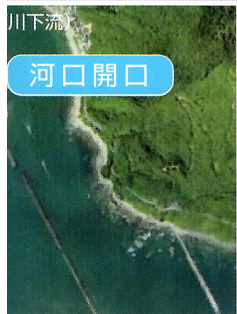
地域のみなさまや関係機関との調整や詳細な調査・検討などにより、計画は変更される場合があります。

- 河道掘削
- 堤防
- 排水ポンプ場
- 橋梁

地区	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
国土交通省	五ヶ瀬川	西階地区 北小路地区	三輪地区	河川開削 野田地区	岡富地区
		大瀬川	浜砂地区	安賀多橋	恒富地区 大真地区
	北川		川島地区 追内川地区		
	祝孝川		祝子地区		
宮崎県	五ヶ瀬川		五ヶ瀬川水防災対策特定河川事業		H22年度完了予定
	北川		北川水防災対策特定河川事業		H22年度完了予定
	祝孝川	夏田地区			



追内川地区



河口開削



追内川排水ポンプ場
(完成イメージ)

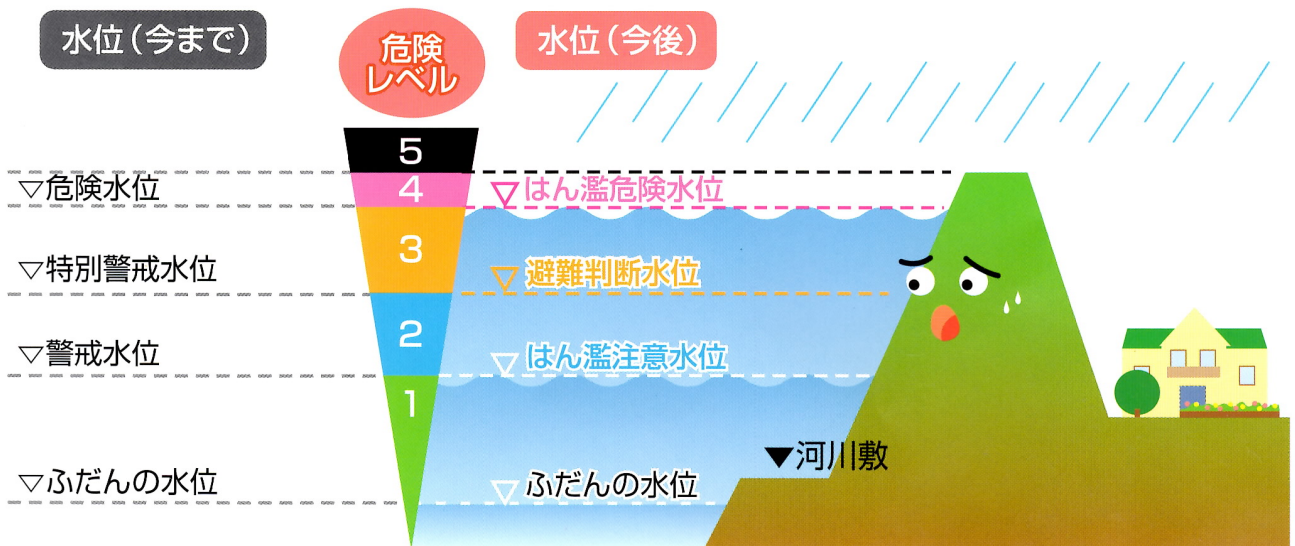


排水ポンプ場
3m³排水

自らまもる ～ 水害に強い地域づくり ② ～

防災用語が変わります

これまでの洪水予報などは、専門用語も多く、状況を把握しにくいところがありました。そこで状況がイメージしやすい防災用語へと変わります。水位名が言葉で分かるように変更になり、危険レベルなどもより分かりやすくなっています。その他の防災用語などの詳しい情報は、延岡河川国道事務所ホームページをご覧ください。



改善方針と改善例

- ①災害の状況や危険度がイメージできない用語については、とるべき行動や状況を示す語句で構成された用語に改善
例) 特別警戒水位→避難判断水位
- ②現在、一般的に用いられていない用語については、一般的に使用されている語句で構成された用語へ改善
例) 排水機場→排水ポンプ場 法・法面→堤防斜面
- ③文字でみればわかるが、音声で聞いただけでは解りにくい用語については、音声で聞いて解る用語へ改善
例) 既往最大流量→過去最大流量
- ④変更すると現場で混乱を招いたり、冗長になる用語は、説明を付して使用
例) 内水→内水(河川に排水できずにはん濫した水)
- ⑤歴史的経緯を持って成立した用語はそのまま使用
例) 霞堤、輪中堤

危険レベル5

川から水が溢れています
浸水深の急激な上昇や流速が速くなるため気をつけましょう

危険レベル4

川がはん濫する恐れがあります
これまでは避難をおえましょう

危険レベル3

避難判断水位を越えています
避難を始めましょう

危険レベル2

普段よりかなり増水しています
避難の準備をしましょう(要援護者の方は避難を)

危険レベル1

川の水位が上昇する恐れがあります
TVやラジオ、インターネットなどの情報に注意しましょう

延岡河川国道事務所ホームページ <https://www.fastalarm.jp/miyazaki>

宮崎県の雨量・河川水位観測情報 <http://kasen.pref.miyazaki.jp>

宮崎県防災・防犯情報メールサービス(携帯)登録先 <https://www.fastalarm.jp/miyazaki>

延岡市災害情報メールサービス(携帯)登録先 b@nobeoka.yobidashi.com

QR対応の携帯はこちら

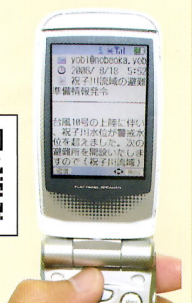


上記メールアドレスに空メールを送信して下さい。折り返し登録フォームが送られてきます。

国土交通省 川の防災情報(携帯)
<http://i.river.go.jp>

宮崎県の雨量・河川水位観測情報(携帯)
<http://kasen.pref.miyazaki.jp/mobile>

メールサービスとは
災害時に状況をメール配信するシステムです



延岡市防災メール受信(イメージ)



延岡市防災推進員
上杉泰洋さん

平成17年の台風14号では県内の各地区で大きな被害を受けました。第2回は、延岡市防災推進員を努めています上杉泰洋さんに、地域防災を支援する立場から「防災の意識づくり」について語っていただきました。

平成17年の台風14号を受けて、住民の皆さんの防災意識に違いがありますか？

台風前から、各地区で自主防災の重要性を話させていただいていましたが「防災=行政の仕事」という意識の方が多いと感じていました。しかし、現在は「自分の安全は自分で守る」という考えが多くの方に芽生えていることを実感しています。

延岡市防災推進員として、普段どのような活動をされているのか教えてください。

各地区で年間約200件の講話をしています。防災についてはもちろんですが、防犯やご近所の絆の大切さなど、普段の活動についても話します。このような「地域の再生」が防災意識を維持し、いざという時の「地域連携」に大きく係わってくるのです。あとは、国土交通省と協力して防災マップづくり、マップを使った避難訓練などの指導をしています。

地域連携という言葉がありましたが、実際には難しい点も多いのでは？

近所付き合いが良い地区は、黙っていても助け合います。「近所と付き合いが少ない」という地域にこそ防災組織が必要なのです。まずは普段の交流から始めてみてください。

これから北川町が延岡と合併(H19.3.6現在)しますが、防災対策などはどのように進めていくのでしょうか？

北川町では合併を前に、第1回目の講話を行いました。今後は防災組織づくりなどに力を入れていきます。ちなみに昨年合併した北浦町では、13区長さん(町内全区)を中心に、地域同士の連携のための連合体を組織する予定です。

最後にこのパンフレットを読んでいる方に伝えたいことがあれば教えてください。

自主防災の講話をした時のことですが、みなさんに地域のためにできることを考えてもらいました。

その時、高齢の方から「どうすればいいのかわからない」と言われたことがあります。私は「まずあなたが無事であることです」と答えました。防災には、大きく分けて自分を守る「自助」、地域などで助け合う「共助」、行政が支援する「公助」があります。その中でもみんなが取り組むことのできる「自助」は、基本の心掛けといえます。しかも「自助」が「共助・公助」につながるのです。そのためにも健康に気をつけ、地域の一員であるという意識を持っていただきたいと思います。

本日は貴重なお話を、ありがとうございました。



防災についての講話会の様子(古川地区)

延岡市消防本部・防災推進室へのお問合せ
☎0982-22-7105

●五ヶ瀬川激特事業に伴う建設発生土の有効利用

平成18年11月14日から翌年3月上旬にかけて、河道掘削などで発生する土砂の受け入れ地の二次募集を行い、多くの方から問い合わせや応募をいただきました、ご協力ありがとうございます。

今後、候補地として選定させていただいた箇所につきましては、土砂搬入に向けた調整を実施していきます。

応募期間	平成18年11月14日～ 平成19年3月上旬
問合せ件数	約30件
応募者数	11件(個人8件)

「みずからまもるレポート」についてのご意見、お問い合わせは

延岡河川国道事務所 調査第一課 ☎0982-31-1191

延岡土木事務所 河川砂防課 ☎0982-21-6143

国土交通省 九州地方整備局 延岡河川国道事務所

〒882-0803延岡市大貫町1丁目2889

■HPアドレス <http://www.qsr.mlit.go.jp/nobeoka/>

■メールアドレス nobeoka@qsr.mlit.go.jp

延岡土木事務所

〒882-0872延岡市愛宕町2-15

■HPアドレス <http://www.pref.miyazaki.lg.jp>

■メールアドレス kasen@pref.miyazaki.lg.jp